

関西大学 経済・政治研究所
子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班
第1回研究会

日 時 平成22年6月3日(木)
15:30~16:20

場 所 高槻ミューズキャンパス 12階
特別会議室

報 告

1. テーマ 子どもとインターネット

報告者 奈良 由美子

(子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班
委嘱研究員、放送大学教養学部准教授)

2. テーマ 子どもと受験

報告者 石井 至 (石井兄弟社 取締役)

司 会 亀井 克之

(子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班
主幹、社会安全学部教授)

問合せ先：関西大学 研究所事務室
〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35
TEL 06-6368-1179 / FAX 06-6339-7721
E-mail keiseiken@ml.kandai.jp



6月3日 研究会
亀井利明名誉教授 講演「ソーシャル・リスクマネジメントの背景」聴講
地域社会とリスクマネジメントの理論の確認



子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班

第1回研究会報告書 平成22年6月3日開催 於：高槻ミューズキャンパス

1. 高槻ミューズキャンパス初等部見学 (13:50~15:25)

校長・教頭との意見交換 亀井克之 (主幹、社会安全学部教授)
石井 至 (研究会報告者、石井兄弟社代表取締役)
菅磨志保 (社会安全学部 准教授)

2. 第1回研究会 (15:30~16:20) 12階特別会議室

- ① 子どもとインターネット 奈良由美子 (委嘱研究員、放送大学准教授)
- ② 子どもと受験 石井 至 (石井兄弟社代表取締役)

出席者

亀井克之 (主幹、社会安全学部教授)
高野一彦 (研究員、社会安全学部准教授)
亀井利明 (関西大学名誉教授)
河田恵昭 (関西大学社会安全学部教授)
白田佳子 (筑波大学大学院教授)
南方哲也 (元・長崎県立大学)
大橋正彦 (大阪商業大学教授)
松野敬子 (NPO法人子ども育成支援協会理事、子育てアドバイザー)

3. 高槻ミューズキャンパス施設見学

平成22年度春季人権啓発行事講演会見学

「ソーシャル・リスクマネジメントの背景」 亀井利明 (関西大学名誉教授)
司会 高野一彦 (研究員、社会安全学部准教授)

4. 意見交換会 (18:00~19:30) 12階特別会議室

出席者 亀井克之 (主幹、社会安全学部教授)
高野一彦 (研究員、社会安全学部准教授)
奈良由美子 (委嘱研究員、放送大学准教授)
亀井利明 (関西大学名誉教授)
河田恵昭 (関西大学社会安全学部教授)
竹本恒雄 (富士火災、元・大阪府警) 社会安全学部「犯罪抑止論」担当予定
池田耕一 (立教大学教授、元・松下電器リスクマネジメント室長)

社会安全学部「コンプライアンス論」担当予定

白田佳子 (筑波大学大学院教授)

石井 至 (石井兄弟社代表取締役)

南方哲也 (元・長崎県立大学)

大橋正彦 (大阪商業大学教授)

赤堀勝彦 (神戸学院大学教授)

梅田享伯 (名古屋文理大学講師)

松下幸史朗 (大阪市立大学特任講師)

松野敬子 (NPO法人子ども育成支援協会理事、子育てアドバイザー)

平成22年度 関西大学 人権啓発行事
2010年6月3日(木) 関西大学 高槻ミュージックキャンパス 社会安全学部

ソーシャル・リスクマネジメントの背景

関西大学 商学部 名誉教授
日本リスクマネジメント学会 会長
亀井 利明

講師紹介：

1930年生れ。神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了（第1期生）。

商学博士（神戸大学）。博士論文『海上保険免責条項論』により各務（かがみ）記念賞受賞。関西大学に46年間勤務。北は北海道大学，南は長崎大学に至る15大学でリスクマネジメント論および保険論を講じる。英国・米国へ留学し，1960年代に日本へリスクマネジメントを紹介したパイオニア。その後，独自のリスクマネジメント理論を開発。1978年に日本リスクマネジメント学会を設立，理事長となる（現在は会長）。

1999年に「心の危機管理」のコンセプトを打ち出して日本リスク・プロフェッショナル学会（昨年ソーシャル・リスクマネジメント学会に改組）を創設。近年，ソーシャル・リスクマネジメントの重要性を提唱している。

近年の著作として『リスクマネジメント総論』（同文館出版，2004年）『ソーシャル・リスクマネジメント』（日本リスクマネジメント学会，2007年），『ソーシャル・リスクマネジメントの背景』（ソーシャル・リスクマネジメント学会，2009年）がある。リスクマネジメントに関する単独著書は15冊。

1. 現在の社会

- (a) リスク社会 — 安全，安心，平和，豊かさ
- (b) 壊れそうな社会 — 格差拡大，企業倒産，家庭崩壊，国家破産
- (c) 沈みいく社会 — 日本バッシング（日本叩き），日本蔑視（ジャパン・ディッシング），縮小する経済，天下りと官僚主導
- (d) 企業不信社会 — 企業不祥事，コンプライアンス違反，経営者リスク，長時間労働と過労

2. リスクの形態

- (a) 純粹危険(loss only risk)と投機的危険(loss or gain risk)
- (b) 静態的危険と動態的危険
- (c) 個人危険(personal risk)と家庭危険(family risk)，企業危険(business risk)，社会的危険(social risk)，国家的危険(governmental risk)
- (d) 災害リスク，業務リスク，管理リスク，戦略リスク

3. リスクマネジメント（危機管理）の形態

- (a) Personal RM, Family RM, Business RM, Social RM, Governmental RM
- (b) 保険管理型（費用管理型）、災害管理型（危機管理型）、業務管理型、経営管理型、経営戦略型、部門管理型、全般管理型、業種別
- (c) 学校、NPO、地域、地方自治体、病院、介護、心の危機管理
- (d) 正統派、思いつき、常識、はったり、官僚統制（内部統制）

4. リスクマネジメントは Business management（企業危機管理）が中心。

そのプロセスは

- (a) リスクの調査・確認 investigate, identifying
- (b) リスクの評価・分析 evaluating, assessment
- (c) リスク処理手段の選択 selecting, treatment
- (d) リスク処理の実行と是正 implement, monitoring

5. リスクの評価・分析

- (a) リスクの発生頻度 Frequency
- (b) リスクの発生強度 Severity
- (c) (a)(b)の組み合わせがリスクの評価・分析である。
- (d) F大S大リスク（レッド・リスク）、F大S小リスク（グレー・リスク）、F小S大リスク（イエロー・リスク）、F小S小リスク（グリーン・リスク）

6. リスク処理手段の種類

- (a) リスクの保有 (risk retention)
- (b) リスクの軽減 (risk reduction)
- (c) リスクの転嫁 (risk transfer)
- (d) リスクの回避 (risk avoidance)
- ◎(a)と(c)が risk finance（リスク・ファイナンス：危険財務）
- (b)と(d)が risk control（リスク・コントロール：危険制御）という。

7. リスク処理手段の選択

- (a) Risk Management の理性と感性
- (b) 危機管理マニュアルを順守
- (c) Risk Manager のリーダーシップと問題解決力
- (d) 集団的意思決定とブレインストーミング(brain storming)

8. ソーシャル・リスクマネジメントとは

- (a) 企業危機管理中のソーシャル・リスク処理の分野である。
- (b) NPOや地方自治体の社会化したリスクのマネジメントを言う。
- (c) 個人危機管理、家庭危機管理、企業危機管理の連携ないし融合による RM
- (d) 個人の心の危機管理と地域社会のサポートを意味する。

9. ソーシャル・リスクマネジメントのリスク対応

- (a) 自助（自助努力）
- (b) 介助（介助協力を得た自助）
- (c) 共助（お互いに寄り合う互助，地域社会や近隣社会の助け合い）
- (d) 公助（公的機関による防衛，救助）
- (e) 創助（亀井利明による造語，(c)プラス(d)）

10. 心の危機管理とリスク・コーディネーション

過労，いじめ，セク・ハラ，パワ・ハラ，コンフリクト（葛藤），フラストレーション（欲求不満），ストレスなどによる心の危機はもちろん心理学の問題ではあるが，危機管理論の問題でもある。

その対策は，以下の(a)～(d)である。

- (a) セルフ・コントロール（癒しのマネジメント）
- (b) 危機管理カウンセリング
- (c) 危機管理コンサルティング
- (d) 危機管理コーチング

これらの選択ならびに組み合わせによる対応をリスク・コーディネーションという。

（2000年以降に出版された参考文献）

- 亀井利明『危機管理とリスクマネジメント 改訂増補版』（同文館出版）
 亀井利明『ソーシャル・リスクマネジメント論』（日本リスクマネジメント学会）
 亀井利明『ソーシャル・リスクマネジメントの背景』（ソーシャル・リスクマネジメント学会）
 亀井利明・亀井克之『リスクマネジメント総論 改訂増補版』（同文館出版）
- 赤堀勝彦『最近のリスクマネジメントと保険の展開』（ゆりり書房）
 赤堀勝彦『企業リスクマネジメントの理論と実践』（三光）
 上田和勇『企業価値創造型リスクマネジメント 第3版』（白桃書房）
 上田和勇編『企業経営とリスクマネジメントの新潮流』（白桃書房）
 亀井克之『経営者とリスクテイクング』（関西大学出版部）
 白田佳子『倒産予知モデルによる格付けの実務』（中央経済社）
 白田佳子『倒産予知の実務ーリスクの管理のための倒産予知』（日本経済新聞社）
 高野一彦『情報法コンプライアンスと内部統制 第2版』（ファーストプレス）
 奈良由美子編『生活とリスク』（放送大学教育振興会）
 藤江俊彦『改訂新版 実践危機管理読本』（日本コンサルティンググループ）
 藤江俊彦編『災害危機管理読本』（日本コンサルティンググループ）
 南方哲也『リスクマネジメントの基礎理論』（晃洋書房）
 南方哲也『リスクマネジメントの理論と展開』（晃洋書房）
 吉川吉衛『企業リスクマネジメント』（中央経済社）

(補足) ソーシャル・リスクマネジメントの考え方について

亀井克之

企業のリスクマネジメントは、ファヨールが1916年に提起した「保全的職能：資産と従業員の保護」を理論的源泉とし、「企業倒産の防止：企業倒産からの防衛戦略・倒産リスクの科学的管理」を究極の目的とした。当初は、保険管理や安全管理と同義とみなされていた。近年、「ERM（全社的リスクマネジメント）」に至るまで、さまざまなコンセプトが提起されてきた。新たな考え方に「ソーシャル・リスクマネジメント」がある。

「現代はリスクの時代で、リスクは多様化し、巨大化し、国際化してきたが、同時に社会化してきた。すなわち、現在はソーシャル・リスクの時代である。このソーシャル・リスクを克服するためには、単に企業危機管理、家庭危機管理、行政危機管理のように個別経済主体が個々に行うリスクマネジメントだけでは不十分である。これらのリスクマネジメントが連携し、それに地域危機管理の考え方を導入した「ソーシャル・リスクマネジメント」が必要である。」（亀井利明，2007）

例えば、新型インフルエンザのようなソーシャル・リスクについて、企業、家庭、行政、地域など、個別経済主体ごとのリスクマネジメントを連携させることによる社会的なリスク対応が、現代のリスク社会においては不可欠となってきた。企業のリスクマネジメントを展開する際も、ソーシャル・リスクマネジメントの中核を担う存在としていかにあるべきかを問う必要がある。

現代は、まさしく、リスクマネジメントの国際規格であるISO 31000に提示されているようなリスクマネジメントの枠組みとプロセスに基づいて、社会の各方面で、ソーシャル・リスクマネジメントが展開される時代といえよう。

参考文献

ISO 31000:2009 “Risk management -Principles and guideline”。

亀井利明『ソーシャル・リスクマネジメント論』日本リスクマネジメント学会，2007年。